

在宅取り組み型（小学校）

学校名	神戸町立北小学校
実施日	平成28年度夏休み期間中・冬休み期間中
会場	北小学校 各家庭
参加人数	全児童255名・保護者
学習課題（分野）	「ギュッ」してぽかぽか～ハグ週間～
運営者の願い	毎日忙しい保護者と習い事や学習に追われる毎日を過ごしている子供達やゲームに夢中になっている子供達が多くなり、親子、家族の時間と会話が自然に少なくなっているご家庭が多いのではないか。そこで、いつもよりスキンシップ（コミュニケーション）をとる意識をお互いに持って頂き、それによって家族との会話の時間が増え子供達が家族の愛情をたっぷり感じ、心がぽかぽかになることを願い活動に取り入れた。

学習の内容

〈取り組みの内容〉

第一回：夏休み期間中一週間、第二回：冬休み期間中一週間を各家庭で実施し、スキンシップから家族とのコミュニケーションをとることを目的としたハグ週間を実施した。

〈取り組みの流れ〉

保護者と全校児童に取組の説明→自校独自の取り組みカードと取り組み案内文書を配布→各家庭での取り組み（取り組みカードの記録）→取り組みカード回収→各学年ごとに取り組みカードの集計→家庭教育学級だよりで実践事例を報告

〈アピール〉

本校初めての取組みのため、次のようなアピールをした。

- ① 保護者に懇談会を利用して取り組み内容の説明
 - ・取り組みカードの実物を見せる。
 - ・ハグ効果を説明する。
- ② 全校児童に終業式に取り組み内容の説明
 - ・取り組みカードの実物を見せる。
 - ・取り組み方や記入の仕方を低学年にも分かるように説明する。
 - ・ハグ効果を説明する。
 - ・宿題的な考えがあるといけないので、できるときに取り組むことを強調して説明する。
- ③ 自校独自の取り組みカードを作成
 - ・1年生～6年生まで同じものを使用するため、低学年でも書きやすいように絵を描くことができる欄を作った。
 - ・スキンシップをとることが目的のため、ハグだけでなく他のスキンシップの方法を例としてあげ明記した。
- ④ ハグ効果を保護者に伝える
 - ・ハグ効果を知ってもらうために、案内文書に図や絵を用いて目にとまりやすいようにした。
- ⑤ 家庭教育学級だよりを発行
 - ・各学年に分け実践事例の報告。子供たちが描いた絵も紹介した。
 - ・最終ページに、ハグ以外のスキンシップ方法を大きいイラストを入れ再度紹介した。

〈結果〉

・取り組みカード提出率

夏休み期間・・・239人提出（255人中）約94%

冬休み期間・・・232人提出（255人中）約91%

・低学年は、ハグをすることに抵抗がなく親子共に積極的に取り組む家庭が多くみられた

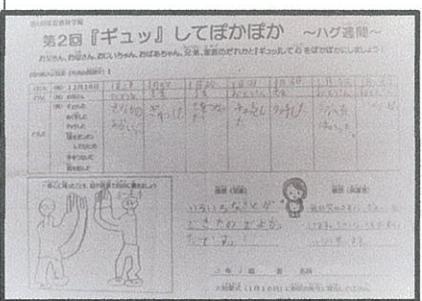
・高学年になるにつれ、ハグをすることに抵抗が出てくるようになり、肩を組む、ハイタッチをするという実践例が多くみられた。

〈感想〉

児 童…温かい気持ちになった・優しい気持ちになった・仕事で帰りが遅いお父さんにやってもらえてうれしかった・お父さんにギュッとしてもたら痛かった・心が落ち着いた・やる気を感じることができた・お母さんの体が暖かくて幸せな気持ちになれた・もっと家族と話したり手をつないだりしたい・恥ずかしかった・家族を大切にしたいと思った・勇気がわいた

保護者…子供の笑顔がみられた・小さい頃を思い出した・親子の会話が増えた・安心感を得ることができた・心と体の成長を感じた・癒された・コミュニケーションが大切なことだと痛感した・ハグに少し抵抗があったがやってみて良いものだと思った

大人も子供も、ハグ週間をきっかけに今まで以上にコミュニケーションをとることができたり、コミュニケーションが大切だと感じてもらうことができた。これからも続けてもらいたい。



保護者の目にとまるように意識し、案内文書や家庭教育学級だよりにイラストや図を出来るだけ用いた。
（※1）



家庭教育学級だよりを発行し、取り組みカードに描かれていた絵をいくつか紹介し、子供たちがどんなふうに感じているかを出来る限り紹介し、保護者に子供たちの気持ちを伝えた。（※2）